

## 平成26年度学校評価報告書(自己評価)

### 本年度の重点目標

- 〔重点目標1〕 学校適応感を高める積極的な生徒指導の推進
- 〔重点目標2〕 基礎学力の定着と学力の向上
- 〔重点目標3〕 豊かな心を育てる教育の推進

	a: 評価項目	b: 取組の状況	d: 成果及び改善方策
重点目標1	積極的な生徒指導の推進 ・規範意識の向上 ・いじめ撲滅に向けた取組 ・小中一貫・連携教育の推進 ・生徒会活動の活性化	身だしなみや礼儀、言葉遣いなど当たり前のことができるように指導した。 「生徒指導通信」を発行し、保護者に対しても啓発活動を行い、昼食時間に放送により生徒に考えさせる活動を行った。 生活アンケート(いじめを含む)を活用した教育相談の実施や、授業中や休み時間、健康観察等により生徒の様子を把握した。 小中一貫・連携推進サポーターが、小学校の授業でT2として授業規律の育成を図った。 生徒会によるいじめ防止の取組や、係活動等の委員会活動を充実させた。	生徒指導については、今後も保護者との共通理解を基本にした指導を継続していく。
	キャリア教育の推進 ・「生き方」を学ぶ体験学習や講演会の実施	農業宿泊体験学習や職場体験学習等の体験学習を充実させ、さらに多様な職種の講師による講演会を実施した。(芸能人・高等学校教員)さらに、今年度は、第2学年による立志式を開催し、地域関係者と保護者にも参観してもらった。	積極的な生徒指導として、将来の展望を持たせ、意欲的に学習に向かう態度を養いたいと考え、今後も進路学習を充実させる必要がある。
	特別支援教育の推進 ・個に応じた指導の工夫	生徒一人一人の個に応じた指導を工夫した。	今後も生徒の個別の課題を分析し、その課題について適正な指導を行う意識を高めたい。
重点目標2	授業規律の確立 ・時間を守る指導 ・規範意識を高める指導	教員のバトンタッチ制。 授業中の言葉遣いや態度について指導の徹底を図る。	全体的には、落ち着いて授業が行うことができるようになった。
	学力・体力向上プランに沿った取組 ・わかる授業に向けた授業改善 ・教科と学年の連携 ・子どもひまわり学習塾の実施 ・家庭学習の習慣化	電子黒板の活用等や授業方法の工夫。 朝自習で基礎問題を繰り返し学習を徹底し、漢字コンクール等の学習コンクールを実施した。 平成26年度北九州教育委員会主催の「子どもひまわり学習塾」に参加し3年生の希望生徒に対して指導員が個別指導を行った。 各教科における課題の配布、さらに、考査前の学習計画表の取組等。	家庭学習の定着をはかるための取組や、学年との連携等を強化し、学旅行向上プランの推進に努めたい。
	学習環境の充実 ・読書活動の推進 ・校内の学習環境整備	「読書活動推進モデル事業」による図書館整備と読書に関する啓発活動。 有線放送による、落ち着いた音楽のBGM導入(休み時間、放課後等) 階段や掲示板に漢字四文字熟語や英単語のカード等を掲示した。	音楽による落ち着いた環境づくりと、英単語等のカードだけでなく、効果的なノートの掲示等の工夫を図った。今後も生徒の学習意欲を高める取組を継続したい。
重点目標3	有用感・成就感を実感させる教育 ・「輝け！本城中」の取組 ・総合的な学習の時間の充実 ・積極的な地域交流	部活動生徒等の頑張っている生徒を紹介するために、試合結果や内容等を昼食の時間に全校放送し、職員室前の掲示板に貼り出した。 農業宿泊学習や職場体験学習、修学旅行、班別研修等、生徒が様々な体験を重視した取組を推進し、さらに指導の効果を高めるために道徳や教科との連携を図った。 地域の市民センターやまちづくり協議会主催の行事(敬老会や餅つき大会)、小学校の学習発表会等の取組に積極的に参加した。	本校生徒の課題として自尊感情の低さがある。がんばった生徒を褒める指導、生徒自身が「自分は頑張った」と感じる場面を多く作ることを継続したい。
	教育活動全体を通じた道徳教育 ・挨拶の取組	登校指導による挨拶や、生徒会やPTAによる朝の挨拶運動を行った。	登校指導における挨拶や、生徒会やPTAの活動、授業における挨拶の取組により、少しずつであるが挨拶は良くなった。
	思いやりと命を大切にする教育 ・人権意識の向上 ・ハートフルタイムの活用 ・体験学習の充実 ・多様な外部講師による講演会の実施	人権週間に「明日への伝言版」を放送する取組を行った。 毎月1回、全国一斉の放送による道徳学習を行った。 第1学年での「スクール救命士学習」や、2学年の「職場体験学習」等、体験学習を充実させた。 福岡県警、少年サポートセンター職員、NPO法人、高等学校職員等、外部講師による講演会を実施した。	「ハートフルタイム」や「明日への伝言版」の教材は、生徒の実態を考慮して題材を考えているために、生徒の真剣に聞いている今後も継続したい。 様々な体験学習や様々な講演会の取組により、生徒にとって「命の大切さ」を多面的に学ぶことができた。今後も事前事後の取組を工夫し、継続していきたい。